



## ■人権週間のとりくみ

昨年12月の人権週間中に、人権啓発パネル展及び「橋のない川」の上映会を、また北朝鮮人権侵害問題啓発週間中に、「めぐみ」の上映会を実施しました。たくさんの感想をいただきありがとうございました。その一部をご紹介します。



～「橋のない川」上映会 感想～

●「橋のない川」のビデオは、じっくり観たいと思っていたので、今回の取り組みは良かったです。「差別はいけないとみんな頭では思っている、現実は違います。「人権を大切に！」とあえて言わなくても良いような世の中になってほしいと思います。「思いやり」をもち、困っている人には自然と手をさしのべることのできる人ばかりになってほしいものです。

●初めて観ましたが、とても胸が熱くなる映画でした。そして、小学生のときに桂川町をフィールドワークして学習したことを思い出しました。「この町でもこのようなことがあったのか」と小学生ながらに驚きくやしい思いをしたことがよみがえってきました。この映画は、いくつもの差別の実態がちりばめられており、特に小さな子たちがいわれもない差別に抑圧されている姿はつらいものがありました。しかし、観られてよかったと心から感じています。私も「部落差別はダメ」と思っている、女性差別、外国人差別、障害者差別など気づかないところで無意識に行っているやもしれません。今日はそんな自分を見つめ直す機会になりました。

●数十年ぶりに観ました。胸が苦しくなる場面が多いのですが・・・今はどうなのかなとおもいつつ、昔のように賤称語を聞くこともなく、差別もずいぶん減ったなと思います。このような時代があったという事をしっかり知っておくこと、大事だなと思いました。いい機会でした。

他にも、観に来てよかったという感想をたくさんいただきました。

人権センターでは人権に関するビデオをいろいろ取り揃えていますので、(今回の上映会を見逃した方も)ぜひ観にきてください。お待ちしております。



山路敦子 館長

1992年制作の東陽一監督「橋のない川」は、私自身も映画館で観ました。とても強い衝撃を受けましたが、差別と闘う姿とともに私自身の人権意識を正された思いがしました。あれから25年経った今、改めて観ると私の人権意識はまだまだだと感じました。1月号の人権だよりでも書きましたが、人権意識を身につけるためには日々研鑽しなければとつくづく感じます。